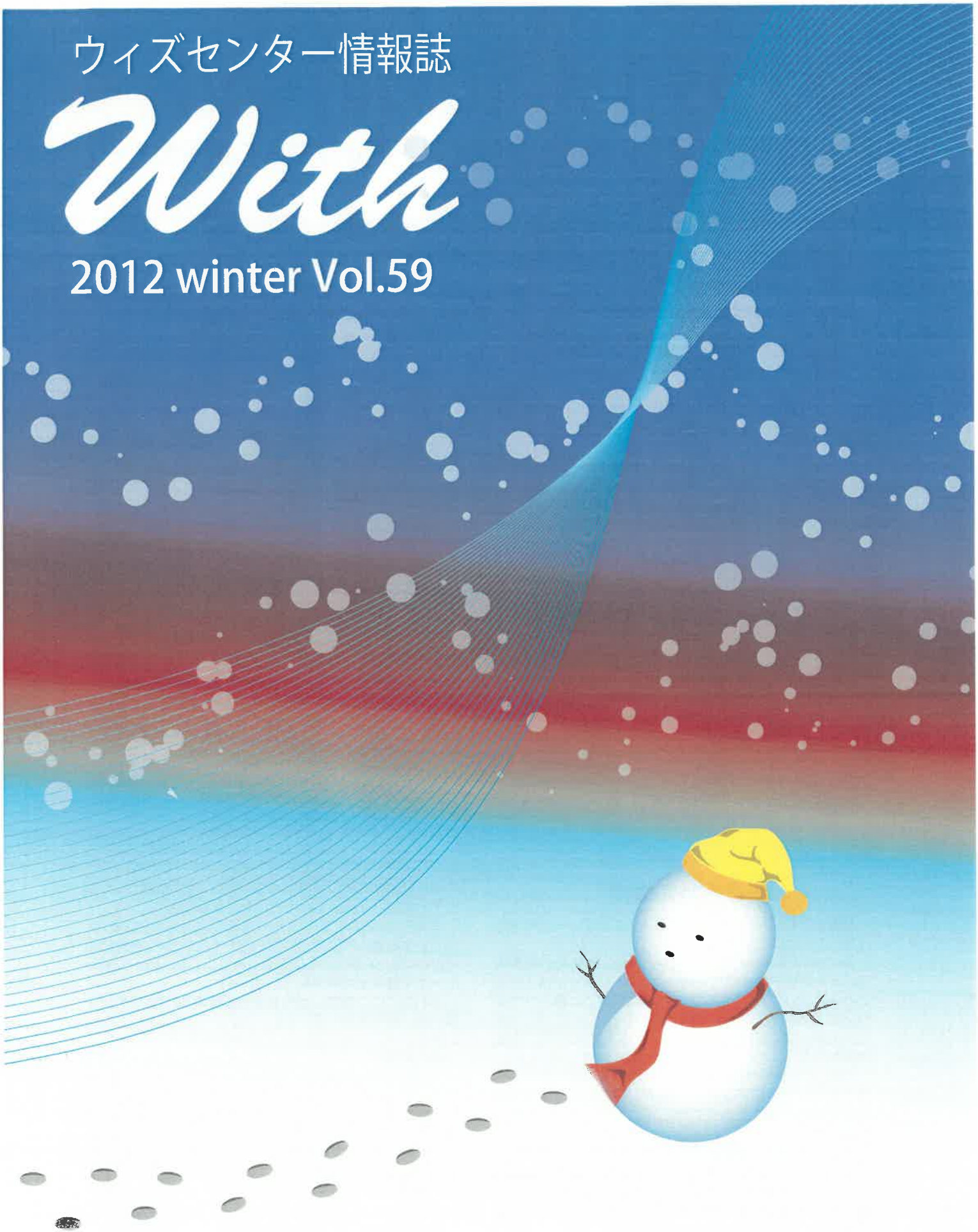
ウィズセンター情報誌

With

2012 winter Vol.59



ウィズフェスティバル2011開催特集

ウィズフェスティバル2011開催特集

テーマ「次世代と 築こう 渡そう 参画社会 ～声かけあって 絆深めて～」

岡山県男女共同参画推進月間（11月）の行事として、「ウィズフェスティバル2011」が11月11日（金）・12日（土）の2日間、ウィズセンターで開催されました。

近所を散歩しているおばあさんに扮装した実行委員による創作寸劇「ウィズセンターに行って得したわ～」の爆笑のオープニングセレモニーをはじめ、期間中は表彰式、講演会、ワークショップ、バザーなど、さまざまなイベントが繰り広げられました。

登録団体やきらめきプラザの入居機関の皆さんからたくさんのメッセージをいただきました！

実行委員長挨拶

皆様、ウィズフェスティバル2011へご参加いただきましてありがとうございます。

私たち18名の実行委員は、3月11日に未曾有の被害をもたらした東日本大震災を踏まえ、一人ひとりが孤立することなく、支え合いながら、誰もが安全・安心に暮らせる地域社会を構築していく上で何が求められているのか、人と人との絆、つながりの大切さを何とか伝えようと、再三議論を重ねながらこのフェスティバルを企画してまいりました。

男女共同参画基本法が施行されて10年が経過しました。この間、女性の社会進出ばかりでなく、保育園の送迎や育児休暇を取得する男性も増え、「イクメン」という言葉も生まれました。

男女共同参画への意識が深まり、少しずつですが着実に社会は変わってきています。性別や年齢、立場などの違いを超え、誰もが認め合い、輝ける社会。そんな男女共同参画社会が実現すれば、世の中はきっと平和になるに違いありません。

当たり前のように考えられていた社会の仕組みについて、立ち止まり、考え直し、私たちに何ができるのか、何をすべきなのかを問いかけながら、今より希望が持てる未来社会を私たちが築いていかなければなりません。

今まさに、これまでの啓発や情報発信からさらに進み、温かいまなざしの中で、人権に根差す生き方が、地域の中でどれくらい行動とともに展開されていくのかという、新たな一歩を踏み出す時期を迎えています。

本日ここにご参集いただきました皆様とともに、実行委員一同、その役割を担ってまいりたい、そんな思いでございます。

県民の皆様にとって、このフェスティバルが、さらに男女共同参画社会の必要性を考える機会としていただけることを願っています。

最後になりましたが、多くの皆様方に支えられまして、今年もフェスティバルを開催することができます。意を尽くせませんが、感謝の言葉を述べさせていただくとともに、実行委員一同のご挨拶とさせていただきます。本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

ウィズフェスティバル2011実行委員会
実行委員長 岡村 咲津紀
（11月12日 記念式典あいさつから）

平成23年度 岡山県男女共同参画社会づくり表彰(県知事表彰)

男女共同参画社会づくりに積極的に取り組み、その功績が顕著であり、今後も活躍が期待される個人及び事業者をたたえる表彰式が、平成23年11月12日にきらめきプラザで行われ、石井正弘県知事から表彰状と記念品が贈られました。

個人の部(五十音順)

氏名及び主な功績等
池田 三重子(いけだ みえこ) さん（倉敷市） イーブくらしきネットワーク代表 玉島公民館の女性セミナーの企画、倉敷市女性情報誌の編集委員、イーブくらしき座で男女共同参画やDVに関する劇の上演などの活動に携わるとともに、イーブくらしきネットワークの代表を務めるなど男女共同参画の推進に貢献
石川 三四(いしかわ みよ) さん（岡山市） 岡山市交通安全母の会連絡協議会会長 「日本女性会議'97おかやま」や岡山市の男女共同参画推進週間「さんかくウイーク」の実行委員を務めたほか、交通安全母の会や婦人会の代表として様々な地域活動を手がけ、女性の社会参画の促進に取り組むなど男女共同参画の推進に貢献
市場 恵子(いちば けいこ) さん（岡山市） 岡山市男女共同参画相談支援センター特別相談相談員 平成3年に設立したウィメンズセンター岡山や岡山市の相談員として、女性の心や体の悩みなど様々な相談やDV被害者のグループカウンセリングに携わるとともに、他の相談員のスーパーヴァイザーの役割を担うなど女性の人権を守る活動に尽力
岡本 安子(おかもと やすこ) さん（総社市） 総社市ネットワーク“波”役員 平成10年から「総社市ネットワーク“波”」の役員を務め、市民等を対象とした講演会の開催で中心的な役割を担うとともに、栄養委員として男性や親子を対象とした先進的な活動に取り組むなど地域における男女共同参画の推進に貢献
杉原 百合子(すぎはら ゆりこ) さん（美咲町） 美咲町男女共同参画まちづくり審議会委員 婦人協議会の副会長として、地域に密着した男女共同参画の啓発活動に積極的に取り組むとともに、平成21年から美咲町男女共同参画まちづくり審議会委員を務めるなど地域における男女共同参画の推進に貢献
堀 伸子(ほり のぶこ) さん（備前市） 男女共同参画啓発劇団「虹」演出兼舞台監督 演劇を通じて男女共同参画をわかりやすく楽しく啓発する劇団「虹」の設立に関わり、劇の演出、舞台監督を手がけるほか、視覚障害がある人への理解を進めるボイスドラマを作るなど劇を通して男女共同参画の推進に貢献
山部 典子(やまべ のりこ) さん（矢掛町） やかげ女性連絡協議会運営委員 平成18年には矢掛町男女共同参画プラン策定委員会委員として「矢掛町男女共同参画プラン」の策定に尽力、やかげ女性連絡協議会の運営委員長や矢掛町男女共同参画審議会委員を務めるなど地域における男女共同参画の推進に貢献

事業者の部

事業者名及び主な取組内容
ビザビグループ(岡山市) 代表者 株式会社ビザビ 代表取締役社長 吉田 大助 さん 女性の採用を積極的に行っており、正職員に占める女性の割合が高く、多様な職種の中で性別に関係ない配置を行うとともに、性別にかかわらず能力のある人材の管理職への登用を行っている。 また、グループ内では共通の制度として、子が就学するまで取得できる一時短時間正社員制度や最長1年までの介護休業制度など法を上回る制度を設けるとともに、仕事と家庭の両立支援に関する社内制度について全社員に対し研修を行うなど、仕事と家庭の両立を図る環境づくりに取り組んでいる。

「家族のつながり、地域のつながり、今大切なこと ～震災報道の現場から～」

講師：杉尾秀哉（すぎおひでや）さん（TBSテレビ報道局 解説・専門記者室長）

朝の情報番組の解説でおなじみの杉尾秀哉さん。

番組を担当するキャスターの苦労話や、ウラ話を披露した後、東日本大震災の報道に携わった経験をもとに、家族や地域の絆の大切さについて語ってくださいました。

昨日（11月11日）で震災から8か月を迎えました。

東京では震度5。赤坂のＴＢＳもかなり長い間揺れました。スタジオに飛び込むと、社員がロッカーの下敷きになって大けがをしていました。

3日間ＣＭ無しの放送を続けました。まさに筋書きのないニュースで、何をしゃべったのか覚えていないくらい無我夢中でした。

忘れられないのは、宮城のお天気カメラの映像です。黒い海から1 本の白い筋が近づいてくるのが見え、それは津波をとらえた瞬間でした。「高い所へ逃げてください！」と連呼しましたが、現地ではテレビを見ることのできる状態ではないわけです。「どうか逃げてくれるといいが…」と願いながら放送を続けました。

結果、2万人近い行方不明者が出てしまいました。

世界的な歴史の中で、テレビ放送が始まって以来の津波映像だと思いました。報道に30年ほど携わっていますが、空前の出来事で、人の命を救えなかったというのは痛恨の極みでした。何とも言えない無力感を感じました。

3日後、なんとかして被災地へ行きました。高台がない町は何も残っていませんでした。においは放送では伝えられないものですが、海、油、人など、さまざまなものが入り交じった何とも言えないにおいがしました。

地震発生直後、悲惨な遺体を目撃しています。それはPTSD（心的外傷後ストレス障害）になるほどで、遺族への配慮から報道としては出していません。

1985年に日航ジャンボ機の事故を報道したことがありますが、あの時、こんな悲惨な出来事はもうないだろうと思いました。26年後にこのような天災に見舞われるとは思いもしませんでした。

瀬戸内も津波が来ない保証はありません。人間どこでどうなるか、明日はどうなるかわかりません。「日々最善を尽くして生きるしかない」ということをこの震災で切実に感じました。

「自助」「共助」の大切さ

今回の震災では、いろいろなことを教えられました。

東北人は黙って行動し、我慢強いと言われますが、忍耐力だけではないと思います。過疎化していますが、地域のコミュニティがしっかり残っているのです。濃密な人間関係は普段はうっとうしいものですが、非常時や災害の時には人と人のつながりはとても大切なものになるのです。

「自助」「共助」「公助」という言葉があります。「共助」は人と人とのつながり、ボランティアなどで、「公助」は警察や自衛隊の援助です。

「津波てんでんこ」という言い伝えがあります。津波が来たら、家族のことも気にせずに、てんでばらばらに避難して全員助かろう、ということです。これは、「一人だけ助かろう」というわけではなく、家族同士で「うちの家族はきっとどこかへ避難しているだろう」という信頼関係がなければできないことです。

また、「釜石の奇跡」というのをご存じですか？今回、釜石市では、小中学生の犠牲者がほとんど出なかったのですが、それは、普段から防災教育をやっていて、知識だけでなく訓練をしていたということがあったわけです。

先日のNHKスペシャルで、三陸の町のドキュメンタリーを放送していました。その町は「公助」が届かない町です。地震で地域が壊滅状態の中、リーダー格の人を中心に自分たちで船を探し、道路を直すなど、若い人たちが牽引役となって頑張っていました。「共助」の精神があれば「公助」は無くてもやっていけるんですね。「自助」・「共助」がいかに大切かということだと思います。

これからの日本と男女共同参画

次に、「日本のこれからと男女共同参画の大切さ」について話をしたいと思います。

日本の経済は、バブル崩壊後は低迷する一方で右肩下がり、失われた10年と言われました。昨年はついにGDPが中国に抜かれました。

欧米メディアでは日本ポルトガル化論を唱える人もいます。ポルトガルは大航海時代には多くの植民地を持ち栄華を極めましたが、リスボン大地震で壊滅的打撃を受け、衰退していきました。日本も地震が起こり、中国には抜かれ、アジアの中の小さな島国となり、ポルトガルと同じような道を歩むのではないかというものです。

日本の借金はほぼ1千兆円と、対GDP比では最悪の状態です。今後、借金は増える、増税をする、というパターンで何年持ちこたえるでしょうか？貯蓄率は下がり、やがてゼロになり、マイナスになります。

また、本格的な人口減少時代に突入し、人口推計によれ

ば、このままの出生率では今後50年で3.5千万～4千万人近く、年平均で70～80万人が減っていく計算になります。70～80万人規模の都市が1年に一つずつ減っていくと考えてみてください。加えて超高齢社会も到来し、「人口が減る→働く人が減る→活気がなくなる」という負のスパイラルに陥るわけです。

社会が成熟すると少子化が進むと言われていますが、現在は日本だけでなく、アジア各国で少子高齢化が進んでいます。先に社会が成熟したヨーロッパではさまざまな改革が行われました。ひとつの例として子ども手当があります。フランスでは、女性が働きながら子育てできる環境を作り、出生率を2.0まで上げることができました。出生率を上げることは経済の成長につながりますが、子育てを決して女性だけに背負わせず、社会全体で支えていく仕組みを作ることが大切です。

北海道大学の宮本教授が「騎馬戦型社会から肩車型社会へ」と言われています。つまり、今後日本は、1人の高齢者を3人で支える社会から、1人で1人を支える社会になるということです。これを解消するには、年金支給開始年齢を遅らせるか、または年金額を減らすか、ということになりますが、上の年代の人たちにとっては抵抗があるので、下の年代を強くする必要があります。

鍵を握るのは女性と高齢者と外国人です。

「ウーマノミクス（女性経済）」という言葉がありますが、これからの日本経済の主役を女性が担う、つまり労働の主役になっていくことが必要です。女性の社会進出は日本の将来を握っているのです。

では、現在の状況はといえば、女性の就業率は7割弱と、この25年で1.5倍に増加しましたが、その特徴は非正規雇用が多いということです。パートやアルバイトのうち、7割が女性です。二つ目の特徴は労働力率ですが、30代に落ち込むというM字カーブを描いています。これは日本と韓国くらいで、欧米ではほぼフラットです。

給与水準は男性を100とすると女性は69、賃金総額も36という状況です。女性は働き盛りの30代で就業を中断し、子育てをしています。そこでキャリアが途切れるため、女性管理職も少ないという状況が生まれます。M字カーブをフラットにすると、労働者が520万人増えると言われています。

「男は外で働き、女は内で家事育児」という性別役割分担については、まだ4割もの人が賛成しています。日本の女性

の活躍機会は不十分で、ダボス会議におけるGGI※で言えば134か国中94位です。女性の国会議員（衆議院）は増えているとはいえいまだ11％（スウェーデンでは45％）で、女性管理職は9％（アメリカでは43％）です。

今や女性に出番と居場所のある社会を官民挙げて取り組むべき時代です。日本では、児童の保育施設への入園率は、フランスなどに比べて依然として低く、女性の就業継続を支援する体制を早急に整えることが重要です。

次に政策決定過程に女性の参画を増やすこと、要するに女性議員を増やす必要があります。アメリカの州議会では、議場で赤ちゃんがハイハイしているのを見かけます。お母さんは議員なんですね。

また、ワーク・ライフ・バランスを進めることも大切です。男性が積極的に子育てに参加するべきです。男性の意識改革、また、税制や社会保障の改革も重要。とにかく官民挙げて取り組まなければなりません。

生き方・暮らし方を変える共同参画

男女共同参画というのは生き方、暮らし方の問題です。

これまでは男性が稼ぎ、妻子を養うという男性型モデルでしたが、とっくの昔に限界がきて、破綻しかけています。今や共働きでないと生活できません。男女の格差はＤＶなどの人権問題も生んでいます。

一方、長時間労働など男性に過度の負担を強いることはプレッシャーにもなっています。交通事故死亡者は年間５千人を切っていますが、自殺者は3万人台をキープしています。その7割が男性で、主な理由は、生活苦、経済問題です。こういう社会は異常で、人道的な社会ではなく、変える必要があります。「男女共同参画」は働く女性の支援だけではなく、人権の問題なのです。

これまで日本では、男性は会社の物語を、女性は家庭の物語を生きてきました。これからは男女とも二つの物語を生きる必要があります。男性は仕事だけでなく、地域社会や家庭に貢献することも大事。生きる喜びを味わってほしい。また、日本の社会を変えていくのは女性です。男女共同参画とは生き方や暮らし方を変えていくことなのだと思います。

※ジェンダー・ギャップ指数
世界経済フォーラムが、各国内の男女間の格差を数値化しランク付けしたもの

ウィズフェスティバル2011　実行委員会自主企画事業　2011年11月11日(金)

シンポジウム「油断大敵!!災害の少ない岡山に安心していませんか?」

一人ひとりが災害に対してどう備えるべきか、災害に強いまちづくりのためには何が必要なのか、シンポジウムを通してみんなで学びました。

コーディネーター

徳田 恭子 さん（NPO法人まちづくり推進機構岡山 理事）
- ◆まちづくり・地域づくり・中山間の問題など人材育成の講師やファシリテーター
- ◆地域の防災マップの作成や防災イベントのコーディネーター等として活躍中

パネリスト

阿部 光希 さん（山陽新聞社 論説委員）
- ◆山陽新聞の社説と滴一滴を担当
- ◆障害者福祉や高齢者介護、医療など取材

竹井 悦子 さん（災害ボランティア）
- ◆傾聴ボランティアとして、被災地の避難所や仮設住宅を訪問
- ◆認定スピリチュアルケアワーカー、NPO法人城山うさぎ理事

久保 佐織 さん（井原地区消防組合 消防士）
- ◆救急救命士の資格を持ち、消防学校を卒業後、現場の第一線で活躍中

コーディネーター
徳田恭子さん

パネリスト
左から阿部光希さん、竹井悦子さん、久保佐織さん

避難所で感じた女性のパワー

徳田：今回のテーマですが、皆さんはどうですか？安心していますか？

岡山県は本当に暮らしやすい所ですが、災害に対する県民の意識は大変低いです。

ただし、東日本大震災以降はメディアからあふれるような情報が流れ、「ひょっとしたら岡山県にも大地震が起きるかもしれない。何か備えなければ！」とお気付きの皆さんがお集まりだと思います。

さて、東日本大震災の被災地では、多くのボランティアが活動していますが、竹井さんは避難所や仮設住宅で、被災者と直接お話しされたそうですね。

竹井：5月に岩手県釜石市、9月に宮城県南三陸町を訪れました。「足湯」による傾聴のほか、お茶とお菓子で和んでほしいと思い、避難所の入口で役場の方にお願いしたところ、山積みしたペットボトルのお茶を見せられ、一度は断られました。でも、実際にお茶を飲むと「あぁ、急須でいれたお茶はおいしいなぁ」と言われ、皆さんにもと中に入れてもらえました。

おいしいお茶とお菓子があれば、女性はそれだけで話に花が咲きます。被災した時の「こんなに大変だった」という話で盛り上がり、それが笑いに変わるようなものすごいパワーを感じました。

ある女性は、寒さでトイレが近くなり、困り果てて救援物資の中に下着がないかと尋ねたところ、差し出されたのは紙オムツだったそうです。初めは驚いたそうですが、「試してみたのよ。そしたら、あったかくて良かったのさぁ」と話され、とても印象に残っています。

人生で3度も津波に遭ったという高齢の方は、持病があるため、3日分の薬を入れた巾着袋を常に枕元に置いていたそうです。津波に備え、心の準備が伝承されている地域はさすがだと感心しました。

また、50人規模の小さな避難所を訪れたときには、その場の空気を読み取って、みんなの意見をまとめてくれる女性がいました。いろいろな場面で、大家族を支える「お母さん」のような包容力を感じ、重要な役割を果たされていると思いました。

徳田：避難所の運営に女性の視点が加われば、雰囲気も変わってきます。

ところで久保さんは、まだ女性が少ない防災の分野で仕事をしていますね。

久保：体力的に優れている男性に頼らなければならないことも多くあります。その分、例えば若い女性や子供が救急車に乗る際には、非日常のことで不安も大きく細かい配慮が必要なため、大柄な男性隊員に交じって出動しています。災害時にも、お互いに支え合いながら業務をこなしていければと思っています。

災害弱者の避難先

阿部：今回の災害は、津波による甚大な被害に原発事故も加わり、災害弱者（要援護者）の避難については注目されにくい面がありました。

岩手県では、難病で寝たきりの方が、地震後の停電により人工呼吸器が使えなくなり救急車を呼びましたが、搬送中に津波にのみ込まれたそうです。

また、集団生活となる避難所では、認知症や障害者の症状が悪化したり、周りに迷惑をかけるため居づらいという状況がありました。知人によると、どの避難所に行っても「障害者はいない」と言われたそうで、車で寝泊まりしたり、倒壊しかかった家に戻ったケースもあったようです。

徳田：高齢者や障害者など災害弱者への対応は後回しにされがちです。大きな課題ですね。

阿部：国は「災害時要援護者避難支援プラン」を市町村に作成するよう促していますが、県内で作成済みなのは4市町のみ。福祉避難所は県内に8か所しかなく、岡山市と倉敷市はゼロという状況です。

現在、病院や施設から在宅での療養（在宅ケア）へという大きな流れがあり、災害弱者は増加していきます。普段から、医療や介護の支援体制をきちんと整えておくべきです。

離れていてもできること

徳田：被災していない住宅団地の中に、仮設住宅が建てられている所もあるそうですね。

竹井：表現が難しいですが、道を一つ隔てて「天国」と「地獄」が共存している状態で、どちらも居心地が悪いと思います。

近隣の人には泣き言を言えず、泣く場所もない。しかし、足湯などで気持ちがフッとほぐれた時に、ホロリと出てくる言葉で自分の気持ちに気付き、涙する方が大勢いました。

意外なのですが、被災地へ行くツアーがさかんにあります。現地の人には、「何を見に来ているんだ」という怒りと、「この状況を見てほしい」という両方の気持ちがあるようです。土産物を買うという経済効果とともに、大変な状況の中で頑張っている姿を見てもらうことで立ち直っていける、という一面もあるのかもしれません。

ですから皆さんには、「離れているから何もできない」ではなく、「離れていても何かできることはないか」と心を寄せ続けていただきたい。そして、その気持ちが何かにつながっていくと信じる姿を、次世代を担う子供たちに見せていただきたいと思います。

阿部：「被災者」の中には、高齢者、障害者、女性などさまざまな人がいます。「特別扱いできない」と言われがちですが、何に困るかはそれぞれ異なります。災害時だからこそ、きめ細かな支援が必要ともいえます。一人ひとりの立場に立って想像力を働かせる。それが、多様な支援を生み出すことにつながるのではないでしょうか。

徳田：災害は大変つらいことですが、そこから生じた課題が、より良い支援に結びついていきます。被災地の支援の内容を知るとともに、自分が手を差し伸べられることは何だろうと想像することが重要ですね。

熱心に聞き入る参加者の皆さん

災害に強いまちづくり

竹井：避難所から仮設住宅に移った段階で、プライバシーは確保されますが、コミュニティは無くなります。今まで自然とともに生きてきた人々、仕事を失った人が、人付き合いが苦手な人が、病を抱えた人が、みな壁に隔てられた小さな箱の中で暮らしている状態で、孤立化が心配です。

被災地はもちろん、ここ岡山でも、コミュニティは災害弱者についていろいろな情報を得る場所だと思います。インターネットから得る情報だけが「情報」ではなく、挨拶を交わすだけの間柄でも、直接会って得る情報がいかに大きいかを認識すべきです。

阿部：今回は、これまでの災害による教訓（孤独死など）がありながらも、仮設住宅の場所の選定や入居基準について、自治体によって対応がまちまちでした。コミュニティケア型の仮設住宅など、その後の生活を見通した対策を、住民から行政に働きかけることを考えておかなければなりません。

徳田：そのときに、自主防災組織があるかないかで全然違ってくるわけですね。ただ避難訓練をするだけでなく、大切なのは、復興に向かう時に一番活動するのだということを見据えて、女性や高齢者などさまざまな立場の人の視点を入れることです。

阿部：要援護者避難支援プランなどは、個人情報の問題がネックになっている所があります。自分の個人情報を、ある程度周りの人に知ってもらうことも、自分を守るためには必要だと思います。

徳田：個人情報は行政から民生委員にはいくらか届きますが、一人で何人も助けることは不可能です。「この町内ではこの人を皆で助けましょう」と話し合いができること。それが第一歩だと思います。

災害への日頃からの備え

久保：岡山県では、自分が災害に遭うとは思わずに暮らしている方が多いと思いますが、この機会に、枕元に懐中電灯を置くことから始め、テレビや雑誌などで取り上げられている防災グッズの中で、準備できそうなものから少しずつそろえてほしいと思います。

そして、どのような場合に避難すべきか、避難する場合はどこに避難するのか、離れている場合はどうやって連絡を取り合うのかを、家族で話し合い、確認してください。それが、自分の命、そして家族の命を守ることにつながります。もし何かがあったら…とイメージすれば、次にどんな行動を取ればよいのかも見えてくると思います。

徳田：日頃からの備えにも、想像力が大切ということですね。もし今、地震が起きたとしたら？

久保：自分の身を守るのが一番です。机の下などに隠れる。火を使っている場合、強い揺れならば火傷の危険があるので、揺れが収まってから火を消す。逃げるときは必ず靴を履く。非常時持ち出し袋は、玄関などすぐに持ち出せる場所に置いておくことが大切です。

また、自宅から避難するときは、できればブレーカーを落としましょう。阪神・淡路大震災では電気の復旧に伴い、電化製品による通電火災が多発しました。ガスだけでなく、電気もぜひチェックしてください。

徳田：まず我が家、そしてコミュニティと、想像力を持っていろいろなことを考えてみる。それをパネリストの皆さんから教わりました。

岡山県民は助け合い精神に乏しいと言われることもありますが、逆に言えば、人を思いやるがゆえに静かに見守る県民性ではないかと思います。いざというときにはこれが大きな力になり、より良い人間関係が築けるのではと期待しています。

会場では、シンポジウムにあわせて、防災グッズを詰め込んだ袋・ベスト・枕や、被災地にも贈られたエコな保温調理カバー「鍋帽子」の展示（協力：岡山友の会）が行われました。

また、シンポジウムの終了後、もう一つの実行委員会自主企画事業**「防災ずきん作りに挑戦」**を開催しました。「枕元や台所など、いつでも手に取れる所に置いておかなくちゃね」との参加者の声。普段からの防災意識が大切ですね。

楽しみながらの防災ずきん作り♪

国内研修報告会・講演会

講師：瀬尾規子さん
（NPO法人協働プランニングNIMS理事長）
主催：おかやま女性国際交流会

第1部「日本女性会議2011松江」報告会
第2部 講演会「協働による男女共同参画社会づくりを目指して ～NPOの地域活動から海外視察まで～」

第1部、会の国内研修として参加した「日本女性会議」分科会の報告を会員6名が行い、あらためて男女共同参画社会推進の大切さを思う報告となりました。

第2部、松江でも会員同士の交流会をもった、NIMSの瀬尾理事長を徳島からお招きして、男女共同参画社会づくりを目指す活動をNPO法人化した道のりを伺いました。当会の自主海外研修に触発されたというNIMS海外視察に話が及ぶ頃には、参加者も講師の元気をもらい、気分は海の外へと飛びました。

カフェ

主催：岡山地域ピーチの会

コーヒー、紅茶でほっとひといき「サロンDEきずなカフェ」

おしゃれなテーブルクロスにかわいらしいお花、入れたてのコーヒーとおいしい紅茶に手作りのクッキーを添えて、フェスティバルの参加者がホッとひと息つけるカフェを設けました。

今年のテーマである「絆深めて」にちなんで名付けた「きずなカフェ」で、参加者同士の絆も深まったでしょうか。

ワークショップ

人形劇：とっとこクラブ
主　催：邑久ライフフォーラム

「楽しく学ぼう！防災・減災 ～さぁ、どうする？その時のために～」

瀬戸内市で5歳児を対象に防災教室を開催している「とっとこクラブ」の皆さんを迎えて、防災・減災について楽しく学びました。人形劇では、モグラとネズミが非常時の必需品などについてわかりやすく説明。持ち出し品クイズや毛布を担架にして運ぶ体験もあり、重いものを軽く持ち上げるちょっとした工夫や、道具がない場合は身近にあるものを代用できることなど、災害時に知っておくと便利なことをたくさん学びました。

手作り体験

講師：玉野市環境講座受講生
主催：14期岡山県女性のバス

「残り布でエコバッグづくり～はじめよう！できることからエコライフ～」

制服（スカート）の残り布で、針も糸も使わない丈夫なバッグを作りました。見た目はコンパクトですが、ペットボトル（2ℓ）が2本すっぽり入る大きさで、普段の買い物にも使えそうです。ペットボトルのふたを利用して作った帽子のブローチを飾りに付けるとよりおしゃれになり、参加した皆さんも喜んでいました。

ワークショップ

講師：萩尾寛江さん
（米国ウィリアム・グラッサー協会認定スーパーバイザー）
主催：KHJ岡山きびの会

「幸せを育むすてきな人間関係」

アクティビティを入れながら、楽しい2時間を過ごしました。家族との大切な関係を築くためには、自分が相手との距離をどうするかを考えて対応すること（家族を自分の所有物だと考え、「あなたのために」と相手を変えたくなるが、相手は変わらない）、また、話し合いをするときの『心の裏』には「相手を自分の思うとおりにさせたい」という下心があるので、値段を交渉するときのように譲れるところは譲りながらお互いの意見を「交渉」して、WIN・WINの関係で話が終わるようにすることが大切だ、ということを学びました。

DV・支援チャリティーバザー・カフェ

主催：特定非営利活動法人さんかくナビ

「ルン！ルン！バザー＆teaを楽しもう ～心ウクウクみんなで楽しいひとときを～」

ポプリや松ぼっくりの飾り、シフォンケーキなど、多くの支援者から提供していただいた商品は、セルフグループによりきれいにラッピングされ、とても華やかなバザーとなりました。

品数も多く、格安の値段でスタートしたバザーは、開始直後から大勢の方でにぎわい、また、カフェもこだわりの陶器でコーヒーや紅茶を提供し、足を運んでくださった皆さんに、香りや味、目で見て楽しみホッとできる時間を過ごしていただきました。

この収益を、被害当事者の女性と子どもたちのために、大切に使わせていただきます。

展示・説明

講師：本多佳代さん
（備蓄食アドバイザー）
主催：(社)岡山県栄養士会

あなたの家の備えはできていますか？「災害時に役立つ食の備え」

災害時に役立つ冊子を配布するとともに、被災地で実際に活用された食品・飲料水なども展示しました。また、次の４つ項目を中心に情報を提供しながら、備蓄食の試食を行いました。（①日頃からの飲料水、缶詰、乾物の備え②粉ミルク、やわらかい食品の備え（乳児、高齢者、慢性疾患のある方）③簡単な料理方法を知る④非常時持ち出し袋の用意（すぐに食べられる食品、粉ミルクとほ乳瓶など））

大変多くの方に参加いただき、県民の備蓄食への関心の高さを知ることができました。

講習会

講師：日本赤十字社岡山県支部指導員
主催：チョボラ・ジュニアの会

「こんなときどうする!?災害・緊急時の対処法～日赤の救急法から～」

一般の人がとっさのときにできる救急法として、昔ながらの三角巾を使った止血法や患部の固定法を教わりました。初めは不安そうだった参加者たちも、講習を受けてみるとてきぱきと腕をつるし、頭に隙間なく布を巻き付けていました。５年前に1週間ほど合宿で救急法を習ったという男性は、「もう忘れたなあ」と言いながら手際よく三角巾を結び、周りの人もびっくり！自転車の乗り方と同じように、一度講習を受けておくと、とっさのときに記憶がよみがえり、救急救命に役立つと実感した２時間でした。

登録団体交流会

ウィズセンター登録団体のうち18団体44名が参加し、活動のPRやビンゴゲームなどで楽しく交流しました。後半には、杉尾秀哉さん（記念講演講師）の突然の登場に、会場は大いに盛り上がりました。

パネル展示

男女共同参画推進月間（11月）の期間中、ウィズセンター内で、登録団体の活動を紹介するパネルが展示されました。いずれも活動への熱意が伝わる力作で、多くの方が足を止めていました。

（出展団体）
- イーブくらしきネットワーク
- 岡山県交通安全母の会連合会
- 岡山県退職女性教職員の会
- (財)岡山県母子寡婦福祉連合会
- 岡山市婦人防火クラブ連絡協議会
- おかやま女性国際交流会
- 岡山女性フォーラム
- 岡山友の会
- 新老人の会岡山支部
- 世界女性会議岡山連絡会
- (社)被害者サポートセンターおかやま

ウィズフェスティバル2011実行委員

池田　公子	おかやま女性国際交流会
岡村　咲津紀	チョボラ・ジュニアの会
金谷　安子	コスモスの会
小西　貞子	14期岡山県女性のバス
佐藤　恵子	(財)岡山県母子寡婦福祉連合会
三近　光	メンズリブフォーラム岡山
清水　依久子	スペシャルオリンピックス日本・岡山
高橋　美佳	特定非営利活動法人さんかくナビ
寺脇　孝子	岡山地域ピーチの会
中西　邦子	(財)岡山県母子寡婦福祉連合会
根本　敦子	14期岡山県女性のバス
服部　瑠璃子	新老人の会岡山支部
藤川　暢子	岡山地域ピーチの会
万代　寿代	おかやま女性国際交流会
向井　悦子	おかやま女性国際交流会
宗定　里江	特定非営利活動法人さんかくナビ
村岡　知子	新老人の会岡山支部
吉田　久美子	スペシャルオリンピックス日本・岡山

ウィズカレッジ　津山さん・さん塾 講演会　2011年10月30日(日)

「参加者全員で、深呼吸してリラックスしましょう！」から始まった講演会。終始穏やかに、包み込むように話される吉岡さんから、男性も女性も、お互いを理解し、より良い人間関係をつくるヒントをたくさん得ることができました。

テーマ　**男もつらいよ**
～「男らしさ」のカラを脱いで自分らしくしなやかに～

講師　**吉岡俊介さん**
(シニア産業カウンセラー、男性相談カウンセラー)

男性の悩み相談から見えてくるもの

男性の特徴は、悩みを一人で抱え込み、非常に孤独であるということです。

自治体が設けている女性の相談窓口は、全国各地に数多くありますが、男性の相談窓口は現在30数か所しかありません。

男性相談の相談者の多くは20～30代。団塊の世代の息子たちです。相談内容は、DV（被害、加害）だけでなく、人間関係など多岐にわたっています。

彼らに昭和40年代の流行歌（男は勝たねばならぬ、男は泣いてはならぬ、という男の美学を歌った歌）を聞かせると、「自分も勝つために努力してきたので、この生き方はわかります」と言われ、驚きました。バブル崩壊後、社会背景は大きく変化したにもかかわらず、この考えはなぜか根強くはびこっています。父親の影響なのでしょうか。

タテ型の「力と支配」に縛られた生き方

男性は階層社会に慣れ、鍛えられているため、上下関係に敏感です。家族に大変な暴力を振るう加害者であっても、相談電話やカウンセリングの場では礼儀正しい。優位者に対してはよい顔を見せる一方、劣位者に対しては暴力で支配する、という例が目立ちます。

また、自分の感情を言葉で表現することが苦手です。多くのDV加害者は、事実関係は言えても、「あなたの感情は？」という問いには、助け舟なしには答えられません。

本音を押し殺しているので、自分の本当の気持ちを確認できていない。また、悩みがあっても、惨めな姿は見せたくないと周囲の目を気にし、抱え込みます。これが、引きこもりや、抑えきれなくなると爆発して事件を起こすことにつながります。

男性の相談電話は無言電話が多いのですが、それでもSOSをくれる人は、次のステップに結びつけていくことができます。少しでもつながる場所ができれば、もっと救える人が出てきます。価値観を支えるものがなくなると、強烈な挫折感や空虚感に見舞われる。そういう人たちを受け止める窓口をもっと増やすべきです。

さらに、こうした男性たちは、周りの目に非常に敏感なため、問題意識を持つ人や理解したいと思う人が増えることも必要です。

より良い人間関係を築くために

生き方には、仕事のような「タテ」モード（論理的思考、自己否定、抑圧・ストレス、支配・服従）のイメージと、プライベートのような「ヨコ」モード（直感・ひらめき、自己肯定、解放・リラックス、寄り添い）のイメージがあると思います。

組織として動く職場ではタテモードが必要ですが、帰宅後、家庭の中まで引きずらないことが大切です。妻や子どもに、「疲れているんだ。空気を読め」という態度で接していませんか？上司の顔色を読むことを家族にさせているのです。

より良い人間関係を築くには、リラックスして「しなやかに」モードを切り替え、肩の力を抜いて「穏やかに」人とつながり、「したたかに」自分らしさを発揮すること。

現代はストレスに満ちた自己否定社会です。相手を責め、傷つける言葉はたくさん持っています。しかし、相手には寄り添う言葉を伝える方が、より良い関係が築けます。

また、ストレス解消には「睡眠」が一番大切です。「おはよう」「お疲れ様」などの挨拶にも効果があります。挨拶は相手を承認し、肯定する言葉です。相手がしなくても、自分のために挨拶しましょう。

自分の言葉で自分の気持ちを語ることは、自分の元気になります。傷ついた時は「傷ついた」と表現し、「悲しいなあ」と言って肩の力を抜きましょう。

相談電話は、つながり、支えてくれるものです。相談が、「男らしさ」のカラを脱がせてくれます。

～ストレスから自分を楽にするためには～

- ☺「頑張る」より「力を抜く」
- ☺誉め言葉を活用する
- ☺自分の言葉で自身の気持ちを語る場をもつ
- ☺専門家に相談することを躊躇(ちゅうちょ)しない

今号の表紙

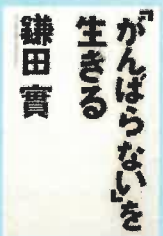
デザイン：安藤(あんどう)　進介(しんすけ)さん（岡山商科大学専門学校　キャリアアップ学科）

（作品のコンセプト）

パラパラ降る雪と、水色のラインによって、冬の寒さと美しさを、雪だるまで冬の楽しさを表現しています。

男女が協力して一つのものを作り上げる。そんな風が吹いて広がっていけばいいな、という想いを込めました。

ウィズライブラリー ～新着図書より～



『「がんばらない」を生きる』
・鎌田實　著
・中央公論新社
(2011年)

自らを「田舎医者」と称するジグザグな半生を歩んできた著者が、今こそ伝えたい、これからの日本が幸せになるための「絆の哲学」。

『ストップ!デートDV
防止のための恋愛基礎レッスン』
・伊田広行　著
・解放出版社
(2011年)

「恋愛観自体を見直していかなければDVは減らない」という自説のもと、恋愛論の具体的かつ大胆な説明と、実際の事件を題材にわかりやすく解説。

『万病息災
老いても病んでも「元気」でいるコツ』
・吉武輝子　著
・講談社
(2011年)

「病み上手は治り上手」。自称「病気のデパート」の著者が説く、生きる元気がふつふつと湧いてくる目からウロコの処方箋。長寿時代に必読の書。

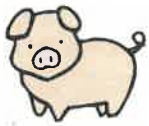
映画のつどい

2月の上映作品

**「NITABOH
仁太坊一津軽三味線始祖外聞」**

津軽三味線の始祖である仁太坊の壮絶な人生を描いた音楽伝記アニメ。老若男女必見の映画です。

日　時：2月23日(木)
13:30～15:10



3月の上映作品

「ブタがいた教室」

「1年間でブタを飼育し、最後にはみんなで食べる」という担任の先生の提案に六年生たちは・・・。妻夫木聡演じる先生と子どもたちの自然な演技が印象的で感動的。

日　時：3月15日(木)
13:30～15:30

交流サロンからこんにちは

自由な交流スペース「交流サロン」を例会やミーティングに活用しているグループを紹介します。

◇(財)岡山県母子寡婦福祉連合会◇

(財)岡山県母子寡婦福祉連合会は、ひとり親家庭などのお母さんを応援する母子寡婦福祉団体です。

団体の活動内容は?

母子家庭の方を支援するため、相談業務や研修会、交流会の開催などを行っています。母子家庭の方の生活の安定と向上を目指して、先輩の声を大切に次に伝えるように心がけています。

メンバーはどんな方々?

岡山県内の20歳代から80歳代の約1,000人の女性が会員です。母子会の活動を知ってもらえるように、それぞれの地域の行事に参加して、活動内容をお知らせしています。

交流サロンでのミーティング風景

今日はどのような会合?

新公益法人制度に対応するため、会長・副会長・理事が集まり、今後の団体運営について話し合っています。

「交流サロン」利用の感想は?

とても利用しやすく、小会議の折には必ずお世話になります。話し合いに熱中して、にぎやかになってしまうこともしばしば。「ゴメイワク」おかけしています。

ウィズセンターにひとこと

ウィズセンターを利用するようになって、他の団体の皆さんとの交流ができるようになりました。また、講座に参加し、男女共同参画社会とは…という勉強もさせていただいています。図書のコーナーも充実しているので、当会メンバーも頻繁に利用させていただき、感謝しています。ウィズセンターは活動の拠点であり、勉強の場です。これからもよろしくお願いします。

活動内容をPRするパネルの前で

やってみよう! 2択式 男女共同参画クイズ

Q1 1979年国連総会で採択された「女子差別撤廃条約」に日本が加盟した年は?

A　1980年（レーガン大統領誕生）
B　1985年（日航ジャンボ機墜落事故）

Q2 では、「女子差別撤廃条約」に日本が加盟したのは世界で何番目?

A　22番目
B　72番目
（2010年2月現在、186カ国が加盟）

クイズの答えは、裏表紙をご覧ください。

インフォメーション

男性のための悩み相談　～男にだって誰かに聞いてほしいことがある～

ウィズセンターでは、男性相談員による男性のための電話相談を行っています。
誰にも打ち明けられず、家族問題、人間関係、生き方、配偶者からの暴力などに苦しんでいるあなたの悩みを、男性相談員がお聞きします。

電話相談日　平成24年2月10日(金) 17:00～20:00
平成24年3月 9 日(金) 17:00～20:00

※相談日は、都合により変更することがあります。
相談は、電話による相談のみで、面接相談は行いません。

男性相談専用電話番号 (086) 221－1270（いつもなやみゼロ）

ウィズカレッジ　「新しい日本を創る働き方」　－参加者募集中－参加費無料

岡山発の人気ブランドで、海外進出を果たしたクロスカンパニーの石川康晴さん。
短時間勤務の正社員制度の導入や長時間労働の改善など、ライフスタイルにあった働きやすい職場づくりをすすめることで、若い人や女性が元気で活躍できるよう応援しています。
中学生の時に起業を志した石川さんにとって「働く」とは?
生まれ育った岡山への想いも語っていただきます。

日　　時：平成24年3月9日（金）14：00～16：00
場　　所：きらめきプラザ 401会議室（岡山市北区南方2－13－1　きらめきプラザ4階）
講　　師：石川　康晴　さん（株式会社クロスカンパニー　代表取締役社長）
定　　員：80名（先着順）
申込方法：3月2日（金）までにウィズセンターへ、電話、FAX、ハガキ、Eメールで、
①氏名 ②電話番号 ③「3月9日講演会」参加希望とお知らせください。

With

ウィズセンターは**土・日曜日**も**開館**しています。
お気軽に、お越しください。

ウィズセンターはこんなところ

開館時間　火～土曜日／9：30～20：00
日　曜　日／9：30～17：00

休館日　月曜日・祝日・年末年始

情報提供
- 図書・ビデオ・DVDの貸出
- 人材情報・各種団体の活動情報の提供
- 男女共同参画に関する資料の閲覧

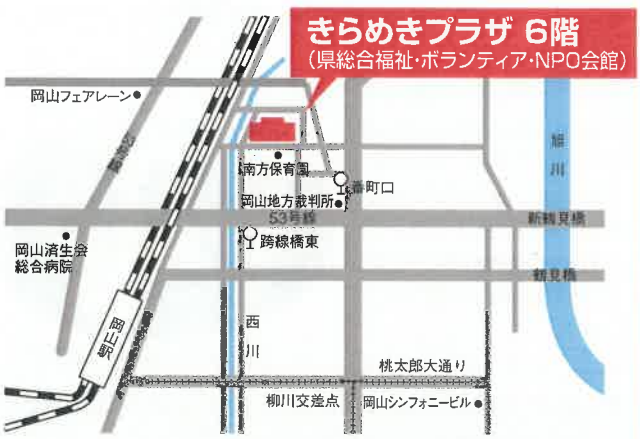
各種講座
- 男女共同参画に関する各種講座の開催

相　談
- 相談員による一般相談
  火～土曜日（祝日を除く）9：30～17：00
  （受付は16：30まで）
- 特別相談（予約制）
  弁護士による法律相談　原則第2・4金曜日
  医師によるこころの相談　原則第1・3金曜日
- 相談専用電話　☎086-235-3310

就業支援
- 就業に役立つ講座の実施
- 就業に関する情報の提供

交　流
- 各種団体へ活動・交流の場と機会を提供

広　報
- 情報誌の発行（年4回）
- メールマガジンの配信（毎月）



ウィズセンターへお越しの際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

ウィズ冬号
(Vol. 59)
2012年1月発行

編集・発行／岡山県男女共同参画推進センター（ウィズセンター）
〒700-0807 岡山市北区南方2丁目13-1
きらめきプラザ(県総合福祉・ボランティア・NPO会館)6階
TEL(086)235-3307(代)　FAX(086)235-3306
Eメール：danjo@pref.okayama.lg.jp

ホームページ
http://www.pref.okayama.jp/
岡山県トップページ
▷組織で探す ▷県民生活部 ▷男女共同参画推進センター（ウィズセンター）

講座等のお申し込み、お問い合わせ、ご意見は、ウィズセンターへ

※P10クイズの答え：Q1…B、Q2…B

R100